

3. 胃がん検診（ABC検診）有所見者状況

胃がん検診（ABC検診）は、出雲市からの受託事業で、1回の採血にてピロリ菌抗体検査とペプシノゲン検査を同時にい、「Aタイプ」「Bタイプ」「Cタイプ」に分類し「胃の健康度」を調べる検診である。

胃がんの多くは、ヘリコバクター・ピロリという細菌（ピロリ菌）による胃粘膜の感染によるものである。ピロリ菌により、慢性胃炎が萎縮性胃炎となり、胃がんに進行すると言われている。また、ペプシノゲンは、胃で作られる蛋白質分解酵素ペプシンのもとになる物質で、これを測定することで、胃の粘膜の炎症や萎縮の変化がわかる。

		ヘルコバクター・ピロリ抗体検査	
		陰性	陽性
ペプシノゲン 検査	陰性	Aタイプ	Bタイプ
	陽性	Cタイプ	



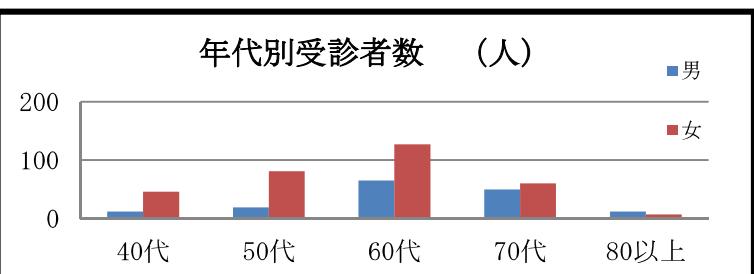
～2011年度 結果～

以下、2011年度の年代別受診者数とタイプ別判定者数、癌、癌疑い診断者数を表にした。
また、過去5年間におけるタイプ別判断数、及び要精検率等を表及びグラフで示した。

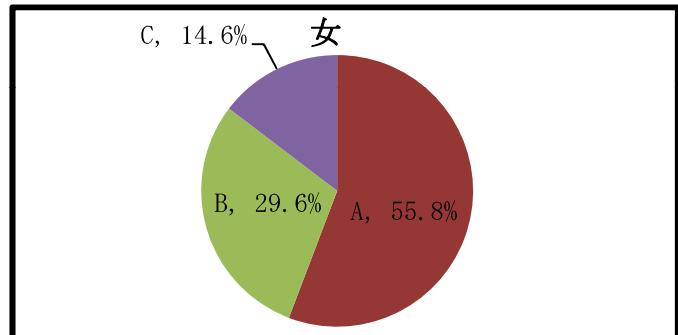
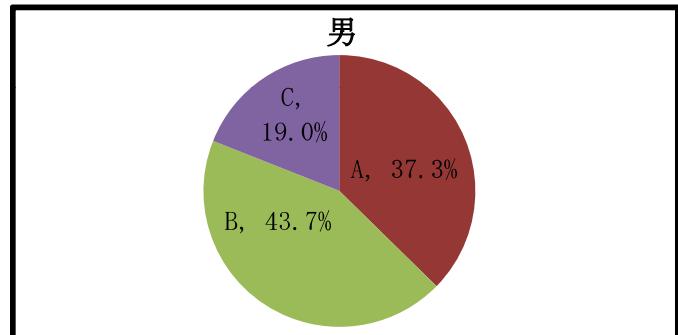
年代別受診者数とタイプ別判定者数、癌診断者数

	総数	男		女	
		男	女	男	女
受診者数(A)	479	158		321	
PG陰性 HP陰性 Aタイプ	238	59		179	
PG陰性 HP陽性 Bタイプ	164	69		95	
PG陽性 HP陰性 Cタイプ	14	2		12	
PG陽性 HP陽性 Cタイプ	63	28		35	
要精検者数(B)	77	30		47	
精検受診者数(C)	57	21		36	
癌、癌疑い者数(D)	1	1		0	
境界域(III)者数	0	0		0	
要精検率(B/A)	16.1%	19.0%		14.6%	
精検受診率(C/A)	74.0%	70.0%		76.6%	
癌、癌疑い診断率(D/A)	0.2%	0.6%		0.0%	

	40代	50代		60代		70代		80以上	
		男	女	男	女	男	女	男	女
	12	46	19	81	65	127	50	60	12
	10	29	11	51	21	62	15	34	2
	1	13	6	19	32	42	23	20	1
	0	1	0	2	1	7	0	1	1
	1	3	2	9	11	16	12	5	2



性別タイプ割合



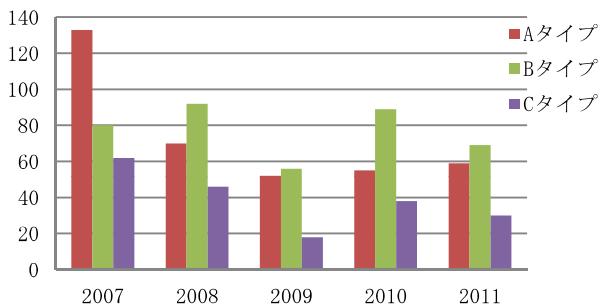
～過去5年間の推移～

胃がん検診 タイプ別年次推移

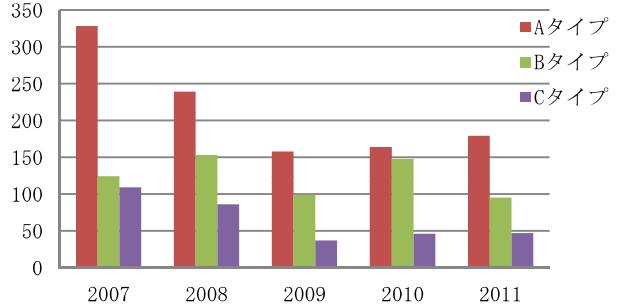
性	検診年度	2007		2008		2009		2010		2011	
		受診者数		受診者数		受診者数		受診者数		受診者数	
男	受診者数	275		208		126		182		158	
	タイプ別	人数	比率								
	Aタイプ	133	48.4%	70	33.7%	52	41.3%	55	30.2%	59	37.3%
	Bタイプ	80	29.1%	92	44.2%	56	44.4%	89	48.9%	69	43.7%
女	Cタイプ	62	22.5%	46	22.1%	18	14.3%	38	20.9%	30	19.0%
	受診者数	561		478		294		358		321	
	タイプ別	人数	比率								
	Aタイプ	328	58.5%	239	50.0%	158	53.7%	164	45.8%	179	55.8%
女	Bタイプ	124	22.1%	153	32.0%	99	33.7%	148	41.3%	95	29.6%
	Cタイプ	109	19.4%	86	18.0%	37	12.6%	46	12.8%	47	14.6%

(注) Aタイプ (PG陰性 HP陰性) Bタイプ (PG陰性 HP陽性) Cタイプ (PG陽性 HP陰性、又はPG陽性 HP陽性)

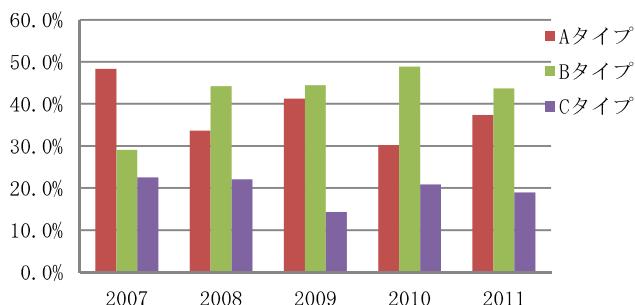
男 タイプ別别人数 (推移)



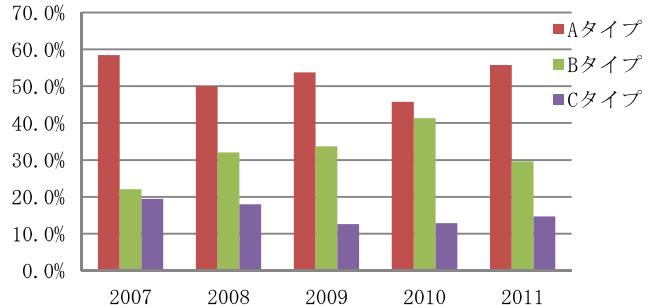
女 タイプ別别人数 (推移)



男 タイプ別比率 (推移)



女 タイプ別比率 (推移)



タイプ別にみると、男はBタイプ、女は健康な状態であるAタイプが多い。胃がんなどになりやすいCタイプは、僅かに男の方が多い傾向にある。ABC検診による胃がん検診では、BタイプからCタイプに移行していく傾向があると言われている。

要精検者状況 (年度別推移)

	性別	2007	2008	2009	2010	2011	東京目黒区 09年 *1	東京足立区 08年 *2	高崎市 96-05 *3
要精検率	男	22.5%	22.1%	14.3%	20.9%	19.0%	39.2%	47.2%	24.3%
	女	19.4%	18.0%	12.6%	12.8%	14.6%			
精検受診率	男	67.7%	71.7%	61.1%	57.9%	70.0%	76.3%	75.2%	65.0%
	女	71.6%	77.9%	67.6%	65.2%	76.6%			
癌又は癌疑い 診断者数	男	2	0	0	2	1	76.3%	75.2%	65.0%
	女	0	0	1	0	0			
癌、癌疑い診断率 *4	全体	0.2%	0.0%	0.2%	0.4%	0.2%	0.3%	0.4%	0.2%

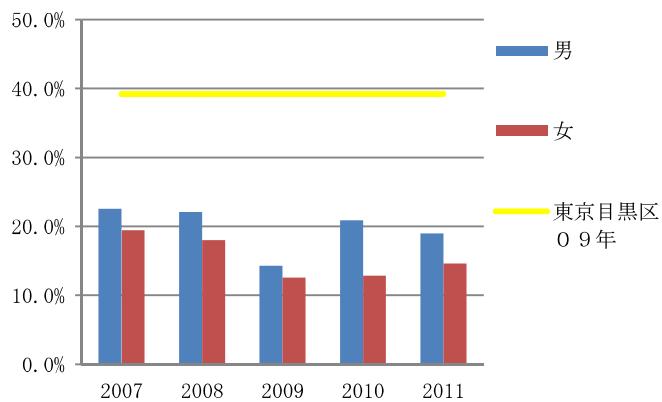
参考資料 *1 *2 特定非営利活動法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構「Gastro-HealthNow」第18号2011.9.15より抜粋

*3 ペプシノゲン法による地域住民胃がん検診 一「高崎市方式」10年間の検討
消化器健診Newsletter : No78. 2007より抜粋

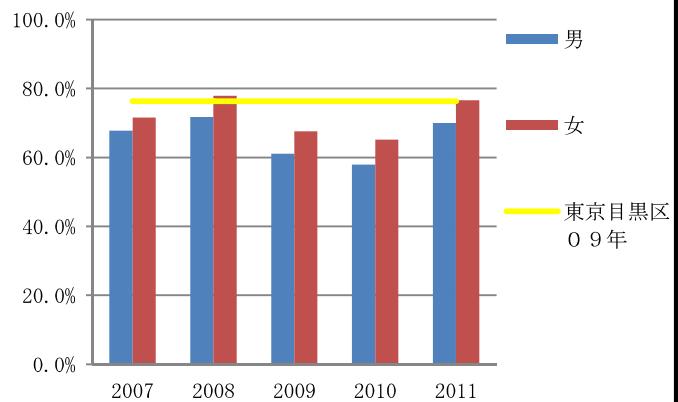
*4 当法人の癌、癌疑いは胃生検組織分類の第4群第5群を集計したものである。

東京目黒区 (2009年度男女)

要精検率



精検受診率



要精検率は、各年度とも男が女よりも高い。
年次別にみると2009年度は男女ともに低く、
その他の年度はほぼ横ばいの傾向にある。
東京目黒区の09年度の率と比較すると、各年度
とも当法人の結果はかなり低率である。

精検受診率は、各年度ともほぼ同じである。
男女別では各年度とも女の方が僅かに高い傾向に
ある。
東京目黒区の09年度の率と比較すると、当法人
の結果は10%前後低率である。